

平成 28 年度 林野公共事業事業評価技術検討会議事概要

- 1 開催日時 平成 29 年 2 月 15 日 9 : 30~11 : 20
- 2 開催場所 北海道森林管理局 2 階 第 2 会議室
- 3 出席者 委員 : 丸谷委員長、樽見委員、庄子委員
管理局 : 小澤総務企画部長
荻原森林整備第一課長、石原森林整備第一課企画係長
辻ノ内森林整備第二課長、高橋森林整備第二課課長補佐
梶岡監査官、横山監査係長

4 議事

- (1) 森林整備事業（完了後の評価）について
- (2) 森林整備事業（事前評価）について

5 議事概要

- (1) 森林整備事業（完了後の評価）
(森林整備第一課企画係長より森林整備事業に係る完了評価 4 件について説明)

(庄子委員)

今回の完了後の評価では、事業評価採択時に比べ、予算が相当付き、総便益及び総費用の評価額等が共に大きく膨らんでいる。今後、このような場合は制度的に再評価することを考えていただいた方がよいのでは。

(局)

制度的には期中評価があり、「社会経済情勢の変化」等により実施することとされているが、定性的な基準であることから必要性判断が難しく、これまでは実施していなかった。

今後、社会経済情勢の変化等により大きく予算が膨むなどした場合は、期中評価の実施を検討しなければならないだろう。また、これはおそらく全国的な課題でもあると思う。

(樽見委員)

便益計算における第三者の評価システムはどうなっているのか。もちろんこの技術検討会は第三者委員会ではあるが、事務局が便益計算算定プログラムを使って算定する数値にも第三者的な評価がされているのか。

(局)

便益計算のためのプログラムは林野庁単独で作成したものではなく、第三者の意

見を聞きながら作られているため、その段階で客観性は入っていると考えている。

(樽見委員)

プログラムについては承知したが、事業採択時とこの度の評価時点では数値に大きな差がある。これら数字をきちんと読み込めないと分析ができない。定性的な説明を追加するなど、もう少し第三者が評価しやすい仕組みが必要と考える。

(局)

数値の変化については、例えば、網走東部森林計画区の2署ではB/Cが事業採択時に比の1/2の結果となっている。これらは当初予定よりも保育間伐が増えた反面、急峻地が多いために森林作業道の作設経費がかかり、その分が増しとなった結果である。

(丸谷委員長)

評価個表は林野庁に報告され公表されるものであるが、例えば、個表の次ページの概要図や写真が添付されている資料の余白に、今のような説明を書き加えることは可能か。私も事業採択時と数字が大きく変わるのには説明が必要と考える。

加えて、添付資料の写真に説明を加えてもらうことは出来ないだろうか。作業前と作業後で何が変わったのか、これらの写真はで何を示し、何を言いたいかなどを解説することも必要と考える。

(局)

来年度に向けて工夫していきたい。例えば、B/Cの変化の説明を参考資料として扱うか、資料内に書き込むかなども含め検討していきたい。

(2) 森林整備事業（事前評価）

(森林整備第一課企画係長より森林整備事業に係る事前評価3件について説明)

(丸谷委員長)

根釧西部署の土砂流出防止便益と木材生産確保・増進便益が、他署に比べ4倍以上となっている。木材生産確保・増進については、根釧西部署管轄内にパイロットフォレストがあり特に大きくなったものと思われるが、土砂流出防止便益の値が他署に比べて相当大きくなっている理由は何か。

(局)

根釧西部署では、更新総量が他署に比べて相当多い実態にある。土砂流出防止便益の算出に当たっては、更新によって地盤支持力が発現するという考え方のもとで更新面積に基づいて計算を行うこととなっていることから値が大きくなったと考えている。

(庄子委員)

チェックリストのⅡの3の(3)の②の高性能林業機械の作業体系についての全ての地区がA判定となっているが、どのような判定基準になるのか。

(局)

森林整備事業として外注する場合、現地は全て森林作業道の規格に基づき高性能林業機械が走行できる道を作設している。フォーワーダーによる集材やフェラバンチャーやハーベスターによる伐倒等、高性能林業機械による作業体系は各地区で確立されていると判断しており、全地区でA判定としている。

(庄子委員)

個表において「費用対効果分析」という言葉を使っている。この仕組みを作った時の上部での委員会で決まったことと思うが、「費用便益分析」の方が正しいのではないのかと考える。

(局)

本検討会は林野庁長官通知に基づいて実施しているところだが、林野庁長官通知にも「費用対効果分析」と記載されている。林野庁の言葉遣いに合わせているものであるが、庄子委員の意見については、本庁に伝えたい。

以上